

電源立地地域温排水対策事業 温排水有効利用事業導入基礎調査

(東 通 地 点)

(要 約)

高林 信雄

温排水を有効利用したアワビ養殖の可能性について検討するための基礎資料を得ることを目的として、アワビ養殖試験を実施した。なお、詳細は「平成6年度電源立地地域温排水対策事業報告書(東通地点)」(平成7年3月、青森県)として報告した。

アワビ養殖試験

青森県栽培漁業センターの平成4年産エゾアワビ稚貝(平均殻長21.34mm)約2千個を、平成5年6月26日からプラスチック製籠(MA-50型、52×35×27cm)10個に200個/籠で収容して、東通村白糠漁港内(水深10m)で海面養殖試験を実施した。平成6年11月26日には50個/籠のもの6籠と100個/籠のもの6籠に入れ替えを行い、現在は密度別の養殖試験を継続している。

平成6年11月26日現在(入れ替え時)の平均殻長は51.20mm、平均重量は21.36g、生残率は41.00%であった。また、試験期間における平均増殻長は29.86mm(0.058mm/日)、平均増重量は14.35g(0.094g/日)であった。

水温が15℃を超える夏～秋に大きく成長し、水温が15℃を下回る冬～春に成長が停滞する傾向がみられた。

平成元年7月5日から平成5年2月10日まで同海面で行ったサイズ別のアワビ養殖試験の結果を基に年齢と生残率の関係、殻長と重量の関係、年齢と殻長関係を求め、養殖年数と水揚金額の関係のシミュレーションを試みた。その結果、大型種苗を用いた養殖でなければ採算が取れないことが想定された。